



これまでにない食料危機に対し 政府は食料自給率向上に責任を果たせ

日本の食料自給率は1960年以降低下を続け、令和4年は38%。異常気象、コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻、異常円安が加わり、日本の農業と食料はこれまでになく危機に直面しています。来年の国会に新農業基本法が提出されますが、これまでの自民党農政の反省もなくさらなる亡国の農政へ進む内容になっています。全国農民連は「食と農の危機打開に向けた提言」を作成しましたので抜粋し紹介します。

食料自給率はなぜ低下したか

現在の食料自給率の低下(図1)は、自然発生したわけではありませぬ。戦後、アメリカは供給過剰となっていた小麦や乳製品を日本に供給し、学校給食を始め、食の欧米化が意図的に進められました。1960年日米安保条約の「経済協力条項」は、日本は工業製品を輸出する代わりに、アメリカの安価な農産物を買っていくることが約束させられました。その後のWTO、TPPなどさらなる貿易自由化により、安価な農産物を輸入し続けた結果、国内農業生産は減少し、食料自給率は先進国中最低となっています。

金さえだせば輸入できる時代ではない

21世紀に入り、世界の食料貿易構造には大きな変化が出ています。それは中国が世界最大の農産物輸入国になり、アメリカも純輸入国に転化したことです。中国の食料輸入の「爆買い」は凄まじく、中国の大豆輸入年間量は1億7千万トンに対し日本は300万トンに過ぎず、中国の端数にもなりません。「買い負け」どころか買えなくなる状況です。

米作りの時給は10円!

令和3年産の稲作農家(平均)時給はたったの10円で、他産業の時給は...

図2



有事に花農家は芋を作れ
政府は戦争できる国づくりの一環として、食料の有事立法を検討しており、花農家に芋を作る命令や価格統制、配給制も視野に入れています。有事の際は、芋を中心に大きな制約のある食事(図2)を想定しています。しかし、中国と戦争を始めてしまえば日本はすぐに飢えるでしょう。日本の食料輸入先として中国はアメリ...

図3

	食料輸入額(億円)	輸入割合
アメリカ	15,579	17.5%
中国	11,907	13.4%
カナダ	5,195	5.8%
タイ	5,193	5.8%
豪州	4,546	5.1%

自給率向上へ農政の抜本的な転換を求め

① 農産物の総自由化の転換

食料安全保障確保のために自給率向上はまったなしです。まず総自由化をあらためる必要があります。特に義務でない米と乳製品の輸入を減らすことです。農地をフル活用し小麦、大豆、飼料の生産を拡大させます。

② 価格保障・直接支払い・農業予算の拡充

米や牛乳は特に生産費を割り込み、農家は赤字での生産を余儀なくされています。アメリカやEUでは生産費を賄う価格保障と所得補償を組み合わせて生産を維持しています。日本の農家は補助金で過保護と言われてきましたが、実態は違います。スイスの農家所得の92%(図4)は国からの直接支払い(税金)です。

食料自給率の向上が議論にならないよう注意!

予算編成に決定的な影響力をもつ「財政制度審議会(2022年11月)」の議論は以下のように建議しています。「食料安全保障の議論が、輸入に依存している品目等の国産化による自給率の向上...に主眼が置かれることには疑問を抱かざるを得ない。今後、食料自給率や備蓄の強化が殊更強調された議論にならないよう十分に注意する必要がある」。不安定な食料情勢を横目に「自給率向上は必要ない」という議論が政府内でされ、さらなる農業予算削減が狙われているのです。

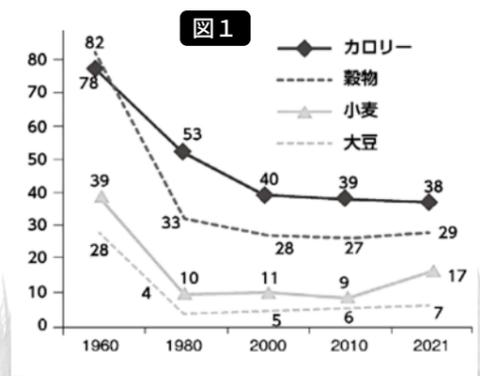
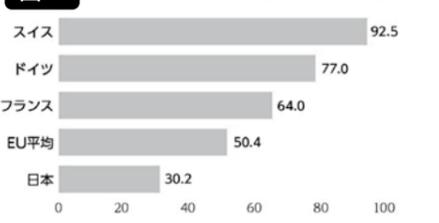


図4 農業所得に占める直接支払の割合

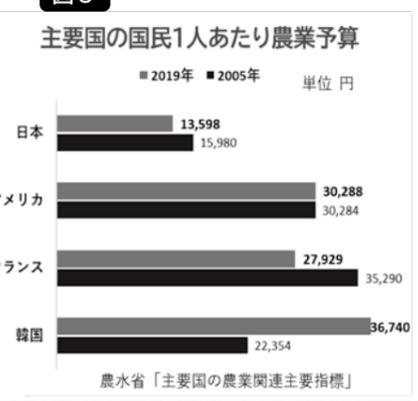


農水省委託調査「主要国の直接支払制度」(18年3月)、平澤明彦報告
日本は鈴木寛弘「日本の食と農が危ない」(21年1月)から、いずれも2016年。

③ アグロエコロジーの推進

世界的に生態系を活かしたアグロエコロジーが主流となりつつあります。地域にあったやり方で土づくりを進め、農業、化学肥料、化石燃料を減らします。学校給食など公共調達に活用していきます。

図5



農民連フラッシュ flash

2023年農民連青年部総会開催

農民連の青年部総会が東京にて開催されました。海外での活動報告や身近な食事の自給率を調べるワークショップも行われ、ハンバーガーやスーパーのお弁当を実際に自分たちで仕分けて自給率を計算しました。この結果を見て、改めて日本の食料自給率の低さを実感することができました。また、ワークショップ後は数年ぶりに懇親会も行われ、全国の農産物やお酒を美味しく頂きながら楽しく交流しました。



祝!産直カフェ開店 20周年企画芋ほり体験

10月7日、直売所産直カフェ20周年企画として芋ほり体験が行われました。当日は天気にも恵まれ、農民連会員伊達市梁川の佐藤さんの畑でお客様、スタッフ総勢29人で収穫を楽しみ、収穫後は昼食交流を行いました。



九条生かし、平和を守れ

県北農民連が毎年取り組んでいる9条田んぼが今年もきれいにできました。憲法改悪反対!ロシアはウクライナ侵攻をやめよ!という思いを込めて、今年の文字は「九条生かし、平和を守れ」です。平和に付いてるハートがかわいいですね。多くの皆さんの思いがこもった素晴らしい出来上りに感動です。

